『らくちんファンド』

第5期 運用報告書

―決算日 2013 年 2 月 25 日―

受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、「らくちんファンド」は、2013年2月25日に第5期の決算を行いました。

ここに謹んで運用状況をご報告申し上げます。

今後とも引き続きお引き立て賜りますようお願い申し上げます。

○当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信／内外／株式
信託期間	信託期間は無期限です。
運用方針	投資家の方々の長期的な資産形成のお手伝いをさせていただくことを目的とし、複数のファンドに分散投資することを基本とします。 運用方針としては、経済の変動のダイナミズムを先取りしたアセットアロケーションを前提にファンドの組成に取り組む方針を一貫して行います。
主要運用対象	主として国内外の株式等を投資対象とする投資信託証券を投資対象とします。
主な組入制限	①投資信託証券への投資割合等には制限は設けません。 ②株式への直接投資は行いません。 ③同一銘柄の投資信託証券への投資は、原則として信託財産の純資産総額の50%未満とします。
分配方針	毎決算時に、収益分配方針に基づいて分配を行います。分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案し決定します。（分配を行わないこともあります。）当ファンドは分配金再投資専用とします。

○お問い合わせ先

クローバー・アセットマネジメント株式会社
〒540-0026　大阪市中央区内本町 1-1-8 アプリコ 201
連絡先:03-3222－1220／06-4790-6200
http://www.clover-am.co.jp/
受付時間：月曜日～金曜日午前 9 時～午後 5 時
（土日祝日を除く）

■設定以来の運用実績

決　　算　　期	基準価額（分配落）円	税込分配金（円）	期中騰落率（%）	投資信託証券組入比率（%）	純資産総額（百万円）
設定日2008年4月24日	10,000	－	－	－	92
1期（2009年2月25日）	6,704	0	△33.0	51.4	224
2期（2010年2月25日）	8,231	0	22.8	75.4	362
3期（2011年2月25日）	8,508	0	3.4	81.0	449
4期（2012年2月27日）	8,300	0	△ 2.4	86.0	506
5期（2013年2月25日）	9,269	0	11.7	82.0	538

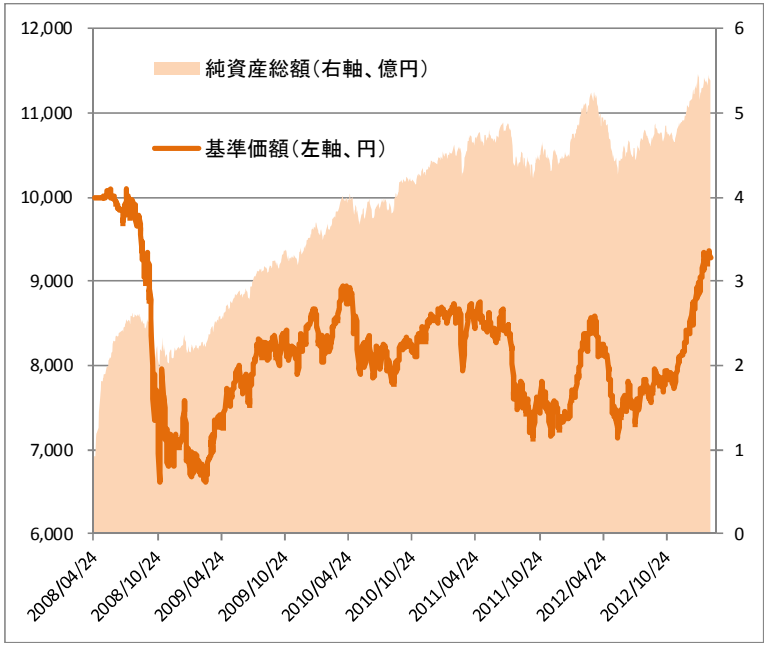
（注１）基準価額は１万口当り。騰落率は期首比。
（注２）当ファンドの運用方針に適当なベンチマーク（参考指数）が存在しないため、上表には市況を併記してありません。

■当期中の基準価額の推移

年　月　日	基準価額（円）	騰落率（%）	投資信託受益証券組入比率（%）
(期　首)2012年 2月27日	8,300	－	86.0
2月末	8,321	0.3	86.0
3月末	8,520	2.7	86.3
4月末	8,212	△1.1	87.6
5月末	7,468	△10.0	86.7
6月末	7,549	△9.0	87.4
7月末	7,566	△8.8	86.5
8月末	7,695	△7.3	86.6
9月末	7,801	△6.0	75.8
10月末	7,834	△5.6	66.4
11月末	8,090	△2.5	62.7
12月末	8,520	2.7	77.2
1月末	9,127	10.0	81.8
(期　末)2013年 2月25日	9,269	11.7	82.0

（注１）基準価額は１万口当り。騰落率は期首比。
（注２）当ファンドの運用方針に適当なベンチマーク（参考指数）が存在しないため、上表には市況を併記してありません。

■設定来の基準価額と純資産総額の推移（2008 年 4 月 24 日から 2013 年 2 月 25 日まで）



■当期の運用概況

基準価額は期首に比べ 11.7%の上昇となりました。

中国経済の減速懸念で世界経済に大きな影響を及ぼすとの見方がありましたが、世界的に株価は堅調を維持しました。これは主に欧米の積極的な金融緩和によって過剰流動性相場が続いていることに加えて、日米独を中心に個別企業の業績が堅調なことも理由に挙げられます。

期中はスペイン国債の利回りが危険水準とされる 7%を大きく上回るなど、債務問題が懸念材料となり、景気後退が予想外に長引く可能性を考慮して、特に欧州と新興国に投資するファンドの売却を行いました。

2012 年 12 月には米国の FRB バーナンキ議長が量的金融緩和第 3 弾の拡大を発表しました。株式市場は発表直後には反応したものの、緩和効果は期待薄との見方が広がりました。前回の大規模な財政出動とともに行った QE1、QE2 と異なり、米政府は今後、財政難から緊縮策へ舵を切らざるをえないことに加えて、金利は既に低く、他国も緩和策を実施しているため、ドル安効果も限られるとの批判もありました。結果的には、米国と欧州のほぼ無制限に近い金融緩和が市場に安心感を与えました。日本では、政権交代により積極的な金融緩和等の政策が打ち出されたことを好感し円安が進みました。年末から 2013 年 1 月にかけては主にさわかみファンド、TMA 長期投資ファンドの組入れを積極的に行い、全体の組入れ比率は 82.0%で期末を迎えました。

■今後の運用方針

近年の日米欧における徹底した金融緩和と大量の資金供給により、過剰流動性が生み出され、より高い投資収益を狙った資金が商品市場や株式市場へと流れ込む構図が明らかとなって来ました。各国中央銀行の徹底した金融緩和姿勢は、これまで市場の不安要因であった欧州債務問題を一掃する勢いであり、過度な悲観は後退しつつあります。

中国問題、ユーロ危機、米国の財政問題といった主要国を襲いかかった劇的な出来事は、各国・各地域を激動と共に先行きに大いなる不安と不安定さをもたらしました。しかし、この劇的な変化により、日米欧を中心にデフレ圧力が強まり、金利の低下が進んでいましたが、2012年12月頃より、米国10年債の金利が上昇し始める等、若干の変化が見られます。世界的に債券市場から株式市場に資金が流れる可能性もあり、インフレ率の変化による債券市場と為替市場の動向に注意が必要です。基本的に日本をはじめ世界の株式市場は、企業業績から見た場合に過熱感は大きくありません。特に日本市場は、長年、投資家から見放されていた分、海外や国内の投資家の保有率は相対的に低く、今後の上昇に期待が出来ます。一方、欧州債務問題は完全に解決してはおらず、これからも絶えず問題になる可能性は十分にあります。イランなど中東情勢についても不安要素があります。しかし、多くの企業は昨年のような厳しいビジネス環境下でも、前向きな経営を続け、着実に成長を続けています。危機をもろともせず、好機に変える気概に満ちた経営者の姿勢に投資のチャンスを感じずにはいられません。引き続き個別銘柄を厳選するスタイルのファンドの組み入れを積極化させること、その方針を引き続き貫いて参ります。

■分配金の状況

当期の分配金につきましては、基準価額の水準及び市場動向を勘案した結果、収益分配は見送らせていただきました。

■分配原資の内訳（1万口当たり）

項　目		当　期（円）
当期分配金（税込み）		0
	当期の収益	－
	当期の収益以外	－
翌期繰越分配対象額		602

（注1）　当期の収益は経費控除後の配当等収益および経費控除後の有価証券売買等損益、当期の収益以外は収益調整金および分配準備積立金です。

（注2）　円未満は切捨てており、当期の収益と当期の収益以外の合計が当期分配金（税込み）に合致しない場合があります。

■１万口（元本 10,000 円）当たりの費用明細

項　　目	金　　額
(a) 信　託　報　酬	76 円
（投信会社）	(40)
（販売会社）	(34)
（受託銀行）	(3)
(b) 保管費用等	8
合　　計	84

（注１）期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、下記の簡便法により算出した結果です。
(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率
(b) 保管費用等＝期中の保管費用等／期中の平均受益権口数
（注２）各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

■当期中の売買および取引の状況

●投資信託受益証券及び投資証券

投資信託受益証券

	買　　付		売　　付	
	単位数又は口数	金　　額	単位数又は口数	金　　額
国内	千口	千円	千口	千円
さわかみ	23,004.778	26,000	18,136.343	19,700
			(-)	(-)
TMA ファンド	69,106.974	63,000	6,042.296	5,000
			(-)	(-)
コムジェスト・ヨーロッパ	-	-	17,699.279	17,700
			(-)	(-)
コムジェスト・エマージング	2,666.667	2,000	119,063.129	106,000
			(-)	(-)

(注1)　金額は受け渡し代金です。また単位未満は切捨てです。
(注2)　売付（　）内は、償還による減少分で、上段の数字には含まれておりません。

■利害関係人との取引状況

期中における当ファンドにかかる利害関係人との取引はありません。

（注）利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第 11 条第 1 項に規定される利害関係人です。

■第二種金融商品取引業を兼業している投資信託委託会社の自己取引状況

当期は自社設定分を処分しました。売買手数料はありません。

■自社による当ファンドの設定・解約状況

期首残高 元本 （千円）	当期設定 元本 （千円）	当期解約 元本 （千円）	期末残高 元本 （千円）	取引の理由
10,000	－	10,000	0	自社財産の運用を目的とした処分

■組入資産の明細

●ファンド・オブ・ファンズが組入れた投資対象ファンドの明細

投資資産の種類	銘柄	当 期 末(2013 年 2 月 25 日)		
		口数（千口）	評価額（千円）	投資比率(%)
投資信託受益証券	さわかみファンド	128,088.069	167,167	31.1
	コムジェスト・ヨーロッパ・ファンド	69,616.781	82,349	15.3
	コムジェスト・エマージング・ファンド	27,884.18	30,296	5.6
	ＴＭＡ長期投資ファンド	163,753.83	161,313	30.0
合計		389,342.86	441,127	82.0
銘柄数				4

（注 1）投資比率は純資産総額に対する評価額の比率です。投資比率は四捨五入してあります。

（注 2）単位未満は切捨てです。

■投資信託財産の構成

項目	当期末(2013年2月25日)	
	評価額(千円)	比率(%)
投資信託受益証券	441,127	81.5
コール・ローン等、その他	99,992	18.5
投資信託財産総額	541,120	100.0

(注) 金額の単位末満は切捨てです。比率は四捨五入してあります。

■資産、負債、元本及び基準価額の状況

項目	当期末 (2013年2月25日現在)
(A)資産	541,120,051円
コール・ローン等	99,992,565
投資信託受益証券(評価額)	441,127,486
(B)負債	2,855,779
未払解約金	1,133,015
未払信託報酬等	1,215,948
その他未払費用	506,816
(C)純資産総額(A-B)	538,264,272
元本	580,714,365
次期繰越損益金	△42,450,093
(D)受益権総口数	580,714,365口
1万口当たり基準価額(C/D)	9,269円

■損益の状況

項目	当期
（A） 配当等収益	46,979 円
受取利息	46,979
（B） 有価証券売買損益	63,022,585
売買益	70,487,995
売買損	△7,465,410
（C） 信託報酬等	△5,069,067
（D） 当期損益金(A+B+C)	58,000,497
（E） 前期繰越損益金	△23,058,385
（F） 追加信託差損益金	△77,392,205
（配当等相当額）	(40,838)
（売買損益相当額）	(△77,433,043)
（G） 合計(D+E+F)	△42,450,093
次期繰越損益金(G)	△42,450,093
追加信託差損益金	△77,392,205
（配当等相当額）	(40,838)
（売買損益相当額）	(△77,433,043)
分配準備積立金	34,942,112

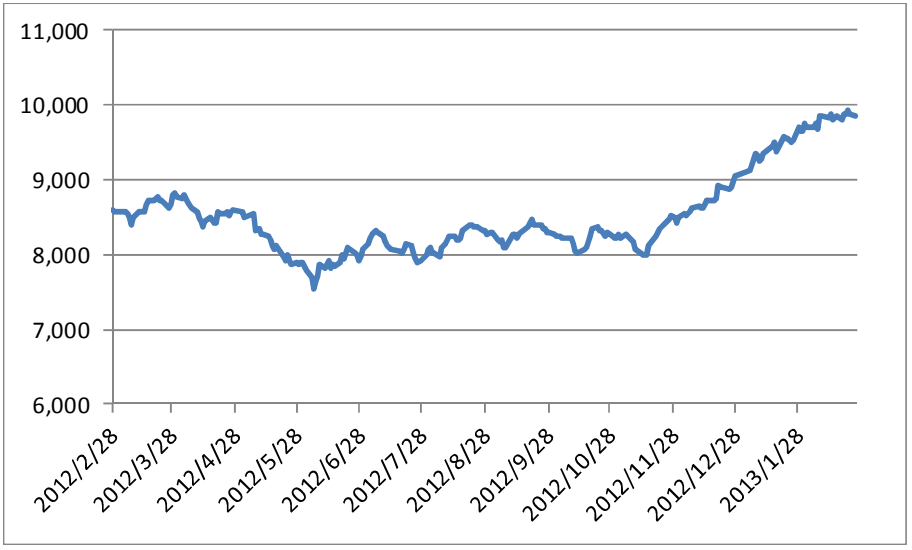
（注 1） 損益の状況の中で(B)**有価証券売買損益**は期末の評価替えによるものを含みます。
（注 2） 損益の状況の中で(C)**信託報酬等**には信託報酬等に対する消費税等相当額を含めて表示しています。
（注 3） 損益状況の中で(F)**追加信託差損益金**とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。
＜注記＞ （本書作成時点では監査未了です）

■組入れファンドの運用内容

1　TMA 長期投資ファンド

現時点で入手できる当ファンドの直近の決算情報を採用しております。

◆当期中の基準価額の推移（円）



◆組入れ上位 10 銘柄（東京海上長期投資マザーファンド）2012 年 5 月 15 日現在

	銘柄名	国名	組入比率（%）
1	キーエンス	日本	3.5
2	デンソー	日本	3.0
3	キヤノン	日本	3.0
4	浜松ホトニクス	日本	2.7
5	関西ペイント	日本	2.6
6	SMC	日本	2.5
7	ミスミグループ本社	日本	2.5
8	三菱商事	日本	2.5
9	ARCHER-DANIELS-MIDLAND　CO	アメリカ	2.4
10	リンナイ	日本	2.4

(注)組入比率は、実質的に運用を行っている親投資信託の純資産総額に対する評価額の比率です。

◆国別構成比率（東京海上長期投資マザーファンド）2012年5月15日現在

資産	国名	構成比率（%）
株式	日本	54.6
	アメリカ	18.1
	イギリス	2.9
	カナダ	1.6
	ユーロ（ドイツ）	1.5
	スイス	1.0

(注)構成比率は、実質的に運用を行っている親投資信託の純資産総額に対する比率です。

◆1万口（元本10,000円）当たりの費用の明細

	項目	当期
(a)	信託報酬	41円
	（投信会社）	(34)
	（販売会社）	(3)
	（受託銀行）	(4)
(b)	売買委託手数料	15
	（株式）	(15)
(c)	有価証券取引税	3
	（株式）	(3)
(d)	保管費用等	2
	合計	61

（注 1）期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、下記の簡便法により算出した結果です。なお、売買委託手数料、有価証券取引税および保管費用等は、当ファンドが組入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

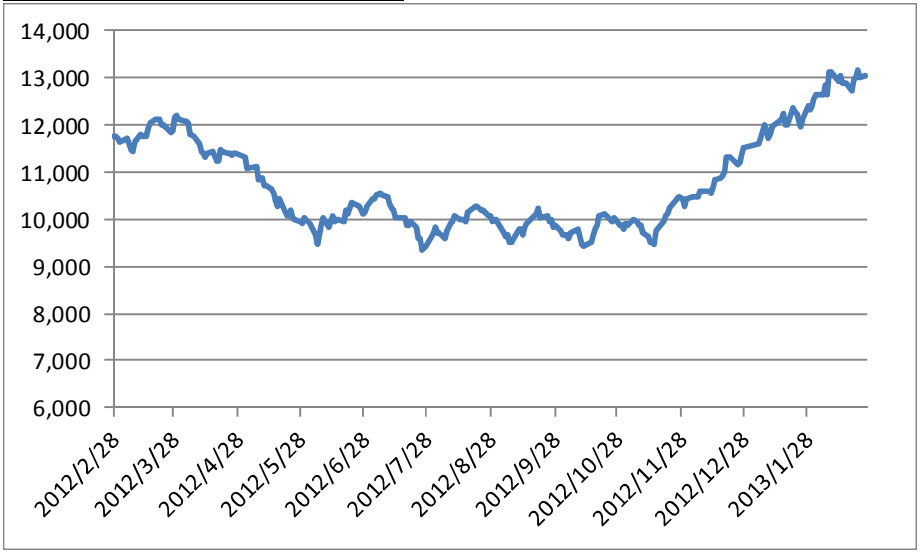
(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率×経過日数／年間日数
(b) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料／各月末現在の平均受益権口数
(c) 有価証券取引税＝期中の有価証券取引税／各月末現在の平均受益権口数
(d) 保管費用等＝期中の保管費用等／各月末現在の平均受益権口数

（注 2）項目ごとに円未満は四捨五入しています。

２　さわかみファンド

現時点で入手できる当ファンドの直近の決算情報を採用しております。

◆当期中の基準価額の推移（円）



◆組入れ上位 10 銘柄　2012 年 8 月 23 日現在

	銘柄名	国内業種区分名	投資比率（%）
1	トヨタ自動車	輸送用機器	4.6
2	ブリヂストン	ゴム製品	3.7
3	三菱重工業	機械	3.0
4	花王	化学	2.9
5	国際石油開発帝石	鉱業	2.3
6	信越化学工業	化学	2.1
7	デンソー	輸送用機器	2.1
8	パナソニック	電気機器	1.8
9	ホンダ	輸送用機器	1.6
10	商船三井	海運業	1.6

◆業種別構成比率　2012 年 8 月 23 日現在

資産	業種	構成比率（%）
株式	電気機器	17.3
	化学	14.7
	機械	14.4
	輸送用機器	12.0
	ガラス・土石製品	4.5
	食料品	4.1
	鉄鋼	3.7
	ゴム製品	3.7
	精密機器	3.0
	医薬品	3.0

◆1 万口（元本 10,000 円）当たりの費用の明細

	項目	当期
(a)	信託報酬	111 円
	（投信会社）	(61)
	（販売会社）	(39)
	（受託銀行）	(11)
(b)	売買委託手数料	1
	（株式）	(1)
	合計	112

（注 1）期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、下記の簡便法により算出した結果です。

(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率

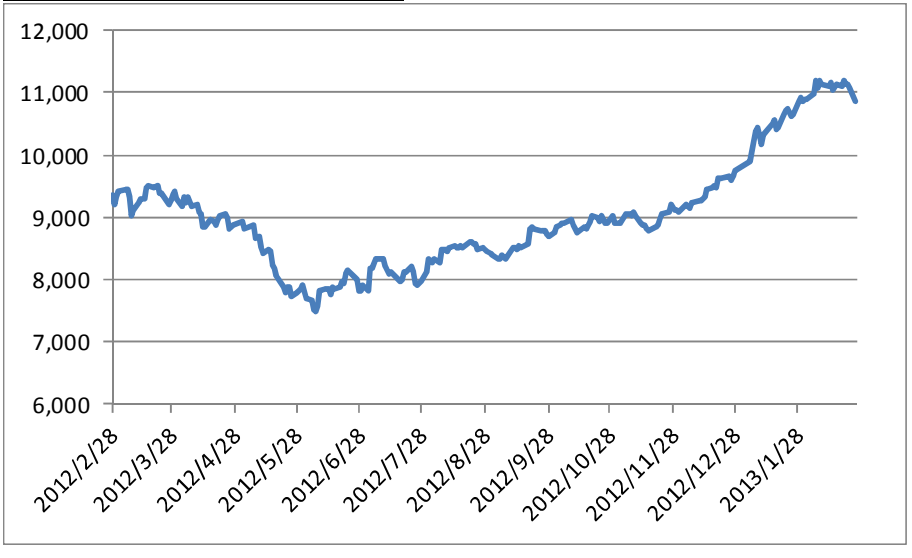
(b) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料／期中の平均受益権口数

（注 2）各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

３　ニッポンコムジェスト・エマージングマーケッツ・ファンドSA

現時点で入手できる当ファンドの直近の決算情報を採用しております。

◆当期中の基準価額の推移（円）



◆組入れ上位10銘柄　2012年12月25日現在

	銘柄名	国／地域名	組入比率（%）
1	TAIWAN SEMICONDUCTOR-SP ADR	台湾	4.8
2	HEINEKEN NV	オランダ	4.1
3	CHINA LIFE INSURANCE CO-H	中国	3.6
4	PING AN INSURANCE GROUPE CO-H	中国	3.6
5	TENARIS SA-ADR	アルゼンチン	3.1
6	BUNGE LTD	アメリカ	3.0
7	WEG SA	ブラジル	2.9
8	WALMART DE MEXICO-SER V	メキシコ	2.9
9	SAMSUNG LIFE INSURANCE CO	韓国	2.8
10	BHARAT HEAVY ELECTRICALS	インド	2.8

◆親投資信託残高

項目	期首口数（千口）	期首評価額（千円）	当期末口数（千口）	当期末評価額（千円）
ニッポンコムジェスト・エマージングマーケッツ　マザーファンド	3,085,325	2,485,846	3,000,391	3,017,194

（注）口数・評価額の単位未満は切り捨て。

◆1万口当たりの費用の明細

	項目	当期
(a)	信託報酬	89円
	（投信会社）	(53)
	（販売会社）	(27)
	（受託銀行）	(9)
(b)	売買委託手数料	13
	（株式）	(13)
(c)	有価証券取引税	3
	（株式）	(3)
(d)	保管費用等	20
	合計	125

（注）期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、下記の簡便法により算出した結果です。

(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率

(b) 売買委託手数料、(c) 有価証券取引税、(d) 保管費用等は、期中の各金額を各月末現在の受益権口数の単純平均で除したものです。

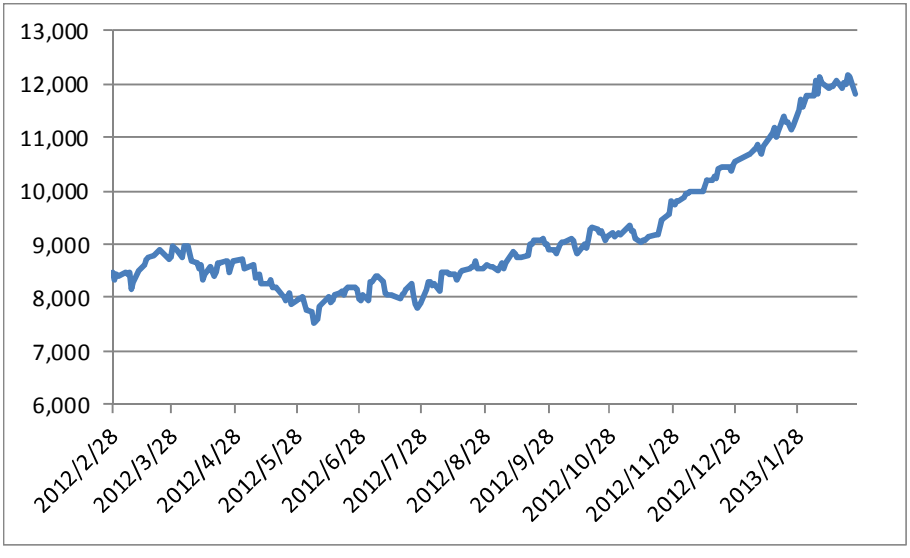
（注）各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

（注）売買委託手数料、有価証券取引税および保管費用等は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものです。

４　ニッポンコムジェスト・ヨーロッパ・ファンド SA

現時点で入手できる当ファンドの直近の決算情報を採用しております。

◆当期中の基準価額の推移（円）



◆組入れ上位 10 銘柄　2012 年 12 月 25 日現在

	銘柄名	国名	組入比率（%）
1	INDITEX	スペイン	6.8
2	SAP AG	ドイツ	6.7
3	DASSAULT SYSTEMES SA	フランス	5.3
4	L'OREAL	フランス	5.3
5	LINDE AG	ドイツ	5.2
6	ESSILOR INTERNATIONAL	フランス	5.1
7	HEINEKEN NV	オランダ	4.3
8	EXPERIAN PLC	イギリス	4.2
9	SODEXO	フランス	4.0
10	ILIAD SA	フランス	3.7

◆親投資信託残高

項目	期首口数（千口）	期首評価額（千円）	当期末口数（千口）	当期末評価額（千円）
ニッポンコムジェスト・ヨーロッパマザーファンド	2,280,087	1,690,912	2,369,268	2,577,763

（注）口数・評価額の単位未満は切り捨て。

◆1万口当たりの費用の明細

	項目	当期
(a)	信託報酬	88円
	（投信会社）	(53)
	（販売会社）	(26)
	（受託銀行）	(9)
(b)	売買委託手数料	6
	（株式）	(6)
(c)	有価証券取引税	2
	（株式）	(2)
(d)	保管費用等	8
	合計	104

（注）期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、下記の簡便法により算出した結果です。

(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率

(b) 売買委託手数料、(c) 有価証券取引税、(d) 保管費用等は、期中の各金額を各月末現在の受益権口数の単純平均で除したものです。

（注）各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

（注）売買委託手数料、有価証券取引税および保管費用等は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。